（社福）新宿区障害者福祉協会　新宿区立障害者福祉センター発行
平成 26 年 1 月 15 日発行

第36号 moi! モイ!

今号のトピック

突撃 !!
隣のショートステイ

今回は豊島区にある「よっちゃん家」のレポートです。4 ページ

避難所モデルづくりイベント

1月１６日(土)に障害者センターを使って行われました、「わいわい福祉フェスタ」において、防災をテーマにしたプログラムを発信しました。2・3 ページ

シリー 知ってる？

障害のある方が困っている場面に出会ったとき、「どうしたらよいか分からなかった」「声をかけてよいか迷った」などの経験をしたことはありませんか。
新宿区では、障害のある方が周囲に支援を求めるための手段として「ヘルプカード」を作成しています。

知ってください「ヘルプカード」

障害のある方もない方も ともに支え合い
安心して暮らすまち

ヘルプカード表紙

ヘルプマーク

ヘルプカード普及推進キャラクター
「すけだちくん」

ヘルプカードは、こんなときに役に立ちます。

日常的に…
ちょっとした手助けがほしいとき

緊急のとき…
道に迷ってしまったとき
パニックや発作、病気のとき

災害のとき…
災害が発生したとき
災害に伴う避難生活が必要なとき

ヘルプカードには、困った時に伝えたいことを記入しましょう。

例えば…

- 緊急連絡先
- アレルギーや発作のこと
- 救急搬送してほしい病院
- 配慮してほしいこと

（人混みが苦手、大きな音が苦手、移動の際は誘導してほしいなど）

障害のある方が困っていたら？

◆「どうしましたか？」と声をかけてください。

◆ 相手に伝わっているか確かめながら、ゆっくり話してください。

◆ ヘルプカードを持っていたら、カードに伝えたいことや緊急連絡先が書かれています。

◆ 書かれている内容に従って、手助けをお願いします。

ヘルプカードは、下記の窓口で、希望する方に対して配布します。

障害者福祉課・牛込保健センター・四谷保健センター・西新宿保健センター・落合保健センター

【問合せ】障害者福祉課福祉推進係（本庁舎２階）
☎ 03(5273)4516　FAX 03(3209)3441

「ヘルプカード」とは周囲に手助けをお願いしやすくなるカードです

障害のある方の中には、自分から「困っている」と伝えられない方がいます。
手助けが必要なのに、コミュニケーションに障害があり、困っていることをなかなか伝えられない方だけでなく、自覚できない人もいます。ヘルプカードは、障害のある方が普段から身に付けておくことで、日常生活で困ったときのほか、緊急時や災害時などに周囲の手助けをお願いしやすくするものです。

「ヘルプマーク」とは、手助けが必要な方が身に着けるマークです

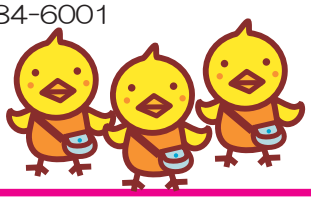
「ヘルプマーク」とは、こうした方々が周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助が得やすくなるよう、東京都が作成したマークです。ヘルプカードを身に着けた方が困っていたら、手助けをお願いします。

≪間仕切りに関するお問い合わせ≫

社会福祉法人 AJU 自立の家
わだちコンピュータハウス　防災企画グループ
〒466-0025 名古屋市昭和区下構町 1-3-3
TEL 052-841-9888

≪ダンボールベッドに関するお問い合わせ≫

セッツカートン株式会社
〒664-0845　兵庫県伊丹市東有岡 5-33
TEL　072-784-6001



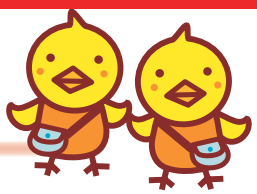
AED 講習

牛込消防署の全面的なご協力で、防災に関する様々な体験コーナーを併せて設置しました。消防官のコスチュームで記念写真を撮れるコーナーのほか、消火活動体験、煙ハウス体験、起震車体験、ＡＥＤ講習などで、防災に関する様々な体験ができました。

避難所モデルづくりイベントを終えて

要援護者の二次避難所運営や地域特性を考えた支援の仕組み作りは、地域ごとで考えた場合、実はまだまだこれからなのです。自分たちの周りの地域で、どのようなシステムを作るのか。様々な取り組みがなされていますが、一体的なものになるには時間がかかるのです。それでも、小さなことをこつこつと形に残していくことです。今回はきっかけづくりにすぎません。この取り組みを今後も形を変えてステップアップさせ、東日本大震災の教訓を、形のあるものとして地域に作り上げ、次世代につないでいくことが同じ時代を生きた人の務めだと思うのです。
次はまた一歩進めた形でご報告したいと思います。

福祉避難所の実際
～障害のある人の被災とは～



2月１日（土）　13：15～15：15

３月 11 日に起きた、東日本大震災は私たちに大きな衝撃を与えました。
震災が起きたとき、被災した障害者はどのような生活を余儀なくされたのか、また障害者を受け入れた福祉避難所ではどのような現実が待ち構えていたのか等を実際に被災をした障害当事者と福祉避難所として運営をされた法人の職員を実際お招きしお話を伺う予定です。

【会場】　新宿区立障害者福祉センター　会議室
【講師】　NPO法人　いわき自立生活センター　小野　和佳　氏
　　宮城野障害者福祉センター　所長　秀城　洋司　氏

平成 25 年度
センター講演会

【講師紹介】

小野　和佳　氏
東日本大震災で、活動場所である福島県から都内に避難されたご経験をお持ちです。

秀城　洋司　氏
東日本大震災の際、要援護者の避難所を実際に開設された宮城野障害者福祉センターの所長をお勤めです。

避難所モデルづくりイベント

新宿区立障害者福祉センターでは、被災時、二次避難所の指定先となっています。
東日本大震災で多くの方が亡くなったことを心に刻み、被害の少なかったこの地域でも、しっかりと防災について考え、形を作り上げて次の世代に渡していくという思いで行動を積み上げていこうと考えています。

11月16日（ 土）に障害者センターを使って行われました、地域の様々な活動団体の出会いの機会「 わいわい福祉フェスタ」において、防災をテーマにしたプログラムを発信しました。ご来場された皆さんと一緒に、要援護者の防災について考えてもらうための布石であり、まずは身近なテーマで関心を持ってもらう狙いでした。

ダンボール間仕切り

ニュース等で見る避難所の間仕切りについて、一般的なイメージは背の低いダンボールでただ区画整理をしているものではないでしょうか。今回用いた間仕切りは愛知県にある「社会福祉法人AJU 自立の家」さんが販売している、プライベートなスペースをしっかり遮蔽できる間仕切りを使用しました。

参加された皆さんに、予備知識は一切与えず、設営してもらいました。皆説明書を読みながらわいわい声を掛け合い組み立てていました。この間仕切りは高さが 180cm あり、今回は 4.5 畳の仕様で組み立てたこともあって、窮屈さは感じないような空間になっていました。中に入られて、これはいい！と声を上げている車いすの方も。

要援護者の場合、着脱衣なども介助の手が入ります。スペースは単純に一人分では計算できません。初めに避難所の規格を作っておいてしまえば、現場での混乱を防ぐことができます。非常に参考になりました。

←トイレ

ダンボールベッド

実際に寝てみたところ、寝心地は想像していたより固くなく、とても良いという声が出ていました。なんの備えもなく、床に直接寝ることを考えれば大変な快適さです。大柄な男性でも十分眠れる大きさでした。

今回のダンボールベッドは、兵庫県にある「セッツカートン株式会社」さんが企画販売しているものをご提供いただきました。常時大量のベッドを保管しておくことなど、費用的にもスペース的にも困難です。被災時、工場が無事であればダンボールベッドは早期に大量に用意し、搬入できるとのことで、とても重要なアイテムと言えます。健康保全にかなりの効果があるに違いありません。スペースがあれば、いくつか購入して保管しておきたいところです。

新宿区立障害者福祉センター　〒 162-0052　新宿区戸山 1-22-2　TEL / FAX　03-3232-3711/03-3232-3344

突撃！となりのショートステイ

Vol.3 よっちゃん家編

きくち職員

前回取材時は猛暑でしたが、あっという間に冬の寒さになった今日この頃、皆様いかがお過ごしですか。取材の方はいよいよ３回目を迎えましたが、今回は新宿区内を飛び出して、豊島区にある「よっちゃん家」という施設にお邪魔してきました。

◆「よっちゃん家」はどんなところ？◆

↑西武池袋線東長崎駅より徒歩約３分。クリーム色の建物にこちらの看板。外観からもアットホーム感が出ています。

運営が社会福祉法人地球郷というところで、生活介護事業の「ポシエット」、就労継続支援Ｂ型事業の「みつばちブンブン」、居宅・訪問介護事業の「ゆきわりそうこの町サービス」、放課後等デイサービス事業の「ジャックと豆の樹　星」などその他様々な事業をしています。その事業の一つに「短期入所」があり、名前が　「よっちゃん家」になります。それぞれネーミングがユニークですね～。

○よっちゃん家　短期入所要項

- 年齢、障害制限：特に制限はしていません
- 受入人数：８名
- 料金：食事代（朝：400 円、昼：600 円、夕：800 円）　※送迎希望者 800 円 / 片道
  他、場合によって受給者証に記載されている自己負担額内の１割負担有
- 問い合わせ：　TEL：０３－3950－2002

◆室内の様子は？◆

←こちらが居室です。んー、ベッドがいいですね～。

→木の温もりが感じられます。作りも寝台車の個室を連想させます。

←広いリビングに大きなテーブル。アットホームなひと時を。

外観もそうなんですが第一印象は「新しい」「綺麗」ですね。
真新しい感じが至る所に残っていました。内部は私の好きな木目（ウッド）調で暖かみのある雰囲気がとても良かったです。

廊下もご覧下さい、受入れ人数も多めというともあってお部屋も複数あり、新しいショートステイのイメージを与えて下さいました。お部屋の中はお写真の通り。ベッドもご自宅にあるようなものも置いてあり、寝心地が良さそうでした。全体的に幼少期に学校行事で泊まりに行った宿泊施設を思い出させてくれる、そんな雰囲気があり、何となく懐かしい感じがしました。

※お部屋によってベッドや配置が異なる場合がございます。

こちらはキッチン兼食堂になります。このよっちゃん家の食事は、職員と一緒に自分達で作るのではなく委託業者やご近所の非常勤の方にお願いをして作って頂いているそうです。当日は都合によりお食事を見ることは出来なかったのですが、いつも色々なタイプの食事が味わえるというわけです。しかも８人の利用者メンバーが来て一緒に食事をするだけあってとても広かったです。大きなテーブルを囲んで皆さんで食事を取る。職員の方は「サザエさん」という表現をされていましたが、まさに磯野家のようなアットホームな雰囲気が想像できました。

◆まとめ◆

取材を振り返って

いかがでしたか。今回は区外へ飛び出していきましたが、実は短期入所というものは条件さえ合えば、地域を越えて利用することができる場合があります。つまり新宿区の人が区外で利用することができるのです。もちろん区内在住の方が優先など条件はあるかもしれませんが、予備知識として知っていても良いかもしれませんね。

実際こちらの利用者の中には板橋区や練馬区などから来られている方もいらっしゃるようです。

是非、ご検討してみてください。

【ＭＯＩ！】についてのご意見、ご感想、投稿をお待ちしています。
〒 162-0052　東京都新宿区戸山１－２２－２　新宿区立障害者福祉センター内　　URL：http://shinjyuku-fukushi-center.org/